

【開講日】平成30年11月28日(水)

あき 三鷹サテライト教室

文化

三鷹

302046d

【連続講座】史料から日本の歴史を考える

中世の合戦と軍忠の認定

受講料 (振込額)	1,500円 ※連続講座「史料から日本の歴史を考える」全7講座お申し込みの場合9,000円				
必携テキスト	――				
講座概要	曜日	水曜日		日程	
	時間	15:00～16:30			
	回数	全1回	定員		50名
	開講場所	三鷹サテライト教室 7F 大教室			
講師	本学教授・日本古文書学会理事 漆原 徹 (うるしはら とおる)				
	武蔵野大学教授 日本古文書学会理事 東京都港区文化財保護審議委員 慶應義塾大学・日本女子大学講師 『中世軍忠状とその世界』吉川弘文館 『亜米利加ミニストル旅宿記』港区教育委員会 『今日の古文書学』雄山閣 『日本法制史料集』慶應義塾大学出版会 『長野県上田市殿城岩清水地区の総合歴史研究』他				
内容	中世の武士は、主人から本領安堵されるための義務と、軍忠をたてて新恩の給与を与えられることを期待して合戦に参加しました。鎌倉・室町幕府体制の中で、武士は軍勢催促状によって戦場に召集され、現場に到着すると着到状を提出して証判と呼ばれる大将または軍奉行人の花押を貰って返却されます。この時大将側では着到帳に名前を記録してくれるのです。次いで合戦になると、一段落したところで自分の活躍を見ていた証人の名前を挙げて、具体的な戦功を書き記した軍忠状を上申します。着到状と同じく内容を証人の証言や疵、また分捕り首を確認して申告内容が正しければ証判を与えて申請者に返却します。内容は、分捕り実験帳や疵実験帳に記録されます。やがて恩賞を与えるにふさわしい手柄を立てたと判断されれば、感状が与えられ、下文によって恩賞地を給付されます。動乱の南北朝時代でも、蒙古襲来を契機に整えられた文書による戦功の認定システムが原則守られています。今日の日本社会が印鑑を社会生活の上で必要とする文書至上主義といえる文化的特徴を持っているのは、中世からの長い伝統なのです。 本講座では、中世の武士が合戦に召集されて恩賞を与えられるまでの文書について紹介したいと思います。				

世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World



武蔵野大学

Musashino University

お問い合わせ TEL 042-468-3222
FAX 042-468-3211

開室日：月～金曜日 9:30～18:00
：土曜日 9:30～15:30 (祝日を除く)

武蔵野大学 社会連携センター

〒202-8585 西東京市新町1-1-20
www.musashino-u.ac.jp

武蔵野大学 三鷹サテライト教室 平成28年3月より南口に移転



JR三鷹駅 南口より徒歩1分

三鷹三菱ビル 6・7 F
(三菱UFJ銀行のビル)

1階入口からお入りください。

- ・ 教室は講座の15分前よりお入りいただけます。
(前の時間に講座がある場合は教室の準備ができるまでお待ちいただくことがあります)
- ・ 教室前の机にある出席簿に○をつけてから教室にお入りください。
- ・ 生涯学習講座登録証を携帯してください。
- ・ 欠席の連絡は必要ありません。
- ・ 駐輪場、駐車場はありませんのでご了承ください。